

Interview!

インタビュー

医師

宮崎 敬太



- Q ドクターヘリ出動時の様子を教えてください。
- A ほとんど情報がないまま現場に到着することも多く、看護師、ヘリスタッフと活動内容を確認、共有しながら活動するように心がけています。
- Q ドクターヘリならではの強みは何ですか？
- A 奈良県中の重症患者さんにいち早く接触できることと、奈良医大高度救命救急センターに県境あるいは県外からでも搬送が可能であることです。
- Q ドクターヘリならではの難しさはありますか？
- A 奈良医大高度救命救急センターでは以前からドクターカーで病院前診療に取り組んでおり、病院前診療に関しては若い医師を含めて多くが経験しています。ドクターヘリに関してはたくさんの情報をさらに短時間で処理する必要があり、そこがドクターカーでの診療との違いかと思っています。
- Q 高度救命救急センターではどのような気持ちをもって業務されていますか？
- A 唯一の高度救命救急センターとして、奈良県中の超重症病状は自分たちで対応する義務があると思っています。
- Q 救命救急に携わる立場として、普段心がけていることはありますか？
- A 僕らが生命の限界を決める立場ではないと思っているので、できる治療法がある限り治療を諦めないことです。



Interview!

インタビュー

医師

木下 有紗



- Q ドクターヘリ出動時の様子を教えてください。
- A できるだけ早く患者さんの元に行くために、走って機内に乗り込みます。現場まで数分で到着するので、限られた時間の中で想定しうる病気や怪我に対する治療の準備をします。
- Q ドクターヘリならではの強みは何ですか？
- A 県内を15分程度で飛行可能なので、陸路では病院到着まで何時間も要する患者さんでも、数分で病院に搬送できることです。
- Q ドクターヘリならではの難しさはありますか？
- A 機内は狭いため、搬送中に状態が悪化しないように全ての処置をヘリに運び入れる前に行っておくのが難しいです。
- Q 高度救命救急センターとはどんな雰囲気ですか？
- A 搬送されてくる患者さんは県内の最重症の方ばかりなので、緊張感をもって働いています。
- Q 救命救急に携わる立場として、普段心がけていることはありますか？
- A 患者さんが気づいていなくても、緊急を要することがあります。それに早く気づいて対処できるように心がけています。

Interview!

インタビュー

看護師

山中 和美



- Q ドクターヘリ出動時の様子を教えてください。
- A 少ない情報から、予測される病状や処置について医師と機内でブリーフィング(事前打ち合わせ)を行い、処置に必要な物品(点滴や気管内挿管など)の準備を行っています。
- Q ドクターヘリならではの強みは何ですか？
- A 県内を15分程度で行くことができ、医師や看護師が現場に向かうことで、緊急度や重症度が高い患者さんに対し、早期に医療介入できます。また揺れが少なく、患者さんの負担が少なくなります。
- Q ドクターヘリならではの難しさはありますか？
- A 要請から接触までの短い時間で適切な準備をし、現場では患者さんの状態に迅速に対応する観察力や判断力が求められます。また消防隊やパイロット、整備士などの多職種とスムーズに連携する必要があります。
- Q 高度救命救急センターとはどんな組織ですか？
- A 奈良県内唯一の高度救命救急センターであり、最後の砦として3次救急を担っています。スタッフ全員が緊張感とプライドを持って働いています。
- Q 救命救急に携わる立場として、普段心がけていることはありますか？
- A いつ要請があっても応えられるよう、体調管理には十分注意しています。